

Wikiばな
プレゼンツ

Wiki市場の可能性

～ Wiki活用講座

イントロダクション

TEXT: しばむらしのぶ

本記事の目的

本記事では、とくにイントラネット（アクセスする人が限られた環境）でのWiki利用の可能性を示します。

Wikiは、オープンなネットワークであるインターネット上でも有効に活用されたサイトが多数存在していますが、認証を設けたサイト内やイントラネットといったクローズなネットワークでも有効に活用されています。そして、後者には、Wikiを有料サービスとして提供できるマーケットの可能性が秘められています。多くのコンシューマ（たとえば非IT企業や学校、地域などのプロジェクトやコミュニティに属する人々）はWikiでページを作成する能力を持っていても、Wikiを設置する技術を持っていないからです。

記事の構成

本稿の記事構成は次のとおりです。

[・イントロダクション](#)

本章です。記事全体でお伝えしたいこと、また、Wikiが得意なことについて簡単な説明をします。

[・Wiki活用具体事例1](#)

編集プロダクションの校正用語集としてWikiを活用した事例です。

[・Wiki活用具体事例2](#)

地域コミュニティのとある育児サークルでWikiを活用した事例です。

[・4つのWikiソリューション](#)

Wikiをビジネス（商品）として扱うときに考えられる利用シーンや、コンシューマ、問題点などを、ソリューションとして4つ提議します。

[・Wikiスタートアップガイド](#)

最後に、興味を持たれた方が手軽にWikiを試せるよう、スタートアップガイドも掲載しますのでご参照ください。

Wiki活用具体事例1, 2は、プロジェクトやコミュニティなど制限された環境でWikiを活用した具体事例です。どちらも現実での事例を基にしています。

今後、コンシューマ向けの良質なWikiサービスがSPやホスティングサーバで開始されることを期待します。

Reprint without permission prohibition
Copyright (c) 2005-2006 All Rights Reserved by Gijutsu-Hyohron Co., Ltd.

2005年4月現在，
日本には，まだWikiサービスを提供しているSIやISP，
ホスティングサービスがありません．
本記事では，インターネットサービスの企画や提案，
ディレクションに携わる方がWikiサービスを検討する際の参考として，
Wikiがどのような用途やマーケットに向いているのかを示します．

イラスト = ワダナツ (WADANATSU)
nukitep@ybb.ne.jp

Wikiが得意なこと

軽快な編集作業

Wikiはハワイ語で「すばやい」という意味です．Wikiは，すばやくWebページを作成することができます．Webサイトに接続できるならば，そのままWebブラウザ上ですばやくページを作成することが可能です．

・手軽にページが作れる

ページを作成する際，HTMLの知識は要りません．またページを掲載する際，FTP経由でファイルをサーバにアップロードする手間も要りません．ページをWebサイトに掲載するには，Webブラウザ上で，新しくページを作成するならば「新規作成」を，すでに存在するページを直すならば「編集」をクリックします．そうして現れたテキスト編集領域にページ内容を記載し，「保存」をクリックすれば，Webサイトにページが反映されています．

このように，すばやくページを作成し，Webサイトに掲載できるWikiの性質は，利用者の負担を大きく軽減します．これがWikiの得意なことで，多くの人に好んで使われる理由の1つです．

コラボレーション作業の実現

Wikiが使われる理由の2つ目に，複数人がコラボレーション作業をする場として利用できることがあります．

・1つの目的を複数人で実現

コラボレーション作業をもう少し具体的に言い換えると，Wikiは複数人で1つのドキュメントを作成するのに向いているということです．もし，複数人で特定の目的を持ったドキュメントを効率良く作成する方法を考えているならば，Wikiはその作業に貢献するでしょう．

Wikiは文書作成アプリケーションよりも軽く動作しますし，Webブラウザで接続できればどこからでも閲覧および編集ができます．とくに制限を設けていないWikiは基本的に誰もがページを作成し，編集することができますのです．また，Wiki記法を使ってページを構造的に記述することもできますし，Wikiによっては作成されたページを階層的に管理することもできます．これらのWikiの機能は複数人がドキュメントを作成するのに向いていると言えます^{注1}．

ここまでのまとめ

Wikiが得意なことを簡潔にまとめると，1つ目はすばやくサイトにページを作成できること，2つ目はコラボレーション作業ができることです．

以降では，これらWikiが得意とすることを活かした事例やソリューションを具体的に示すことで，Wikiサービスイメージを起こすお手伝いができたらと思います．

注1 ここで言うのはドキュメントを作成する段階のことで，発表する段階については，また方法を考える必要があります．Wikiの誰もが編集できる機能は，ドキュメントを固定して発表する場合は適していません．固定して発表したい場合は，Wikiのページをロックする機能や，静的なHTMLやPDFなどに内容を移植する方法など，さまざまな方法が考えられます．

Wiki活用具体事例1： 編集プロダクションでのWiki利用

TEXT:なおこ

導入のきっかけ

筆者が勤める編集プロダクションKでは、社内の情報共有にWikiを活用しています。社員が企画を立案する際の情報収集所として、総務から社員へのお知らせを掲載する社内報に、また、各プロジェクトごとに議事録やスケジュールをまとめる場所としてもWikiが利用されてきました。いずれも閉じられたイントラネットでの運用ですが、機会さえあれば社外の人にもWikiを公開し、利用してもらえたら便利なのと思っていました。

雑誌用校正システムとしてのWiki

そんなある日、取引先の企業から「雑誌の校正で使う用語集をWebで一元管理できないか？」という相談を受けました。用語集というのは、

表記を統一するためにまとめられた文書で、これまでは編集責任者がExcelで作成したものを、各自が出力して利用していたのです。新しい用語が追加されたり変更があったときは、更新したExcelファイルに関係者全員に配布し直す必要があり、管理の負担になっていました。

この用語集をWebで閲覧できるようにすれば、つねに最新の用語集を共有でき、どこにいても校正することができます。最初はExcelのファイルをその

ままアップロードすることも考えましたが、HTMLに落とし込めばより使いやすくなります。さらに、Wikiを使えばHTML化の作業が大幅に軽減され、その後の更新もしやすくなると閃きました。



Wikiの設置

用語集を管理している編集責任者に「用語集にWikiを使いたいけど、どう思う？」と聞くと、「それはいいね」という返事。「どんな感じになるか作ってみて」と言われ、さっそく試作品を作成することにしました。

Wikiの選択

Wikiアプリケーションには、サイドメニューを設定できるWikiの中からHikiを選びました。サイドメニューに索引メニューを配置し、各ページの移動を楽にしたかったからです。また、索引メニューの上に検索ボックスを設置して、どのページからでもWiki内を検索できるようにしました。Hikiでは、プラグイン“search.rb”を使用することで任意の場所に検索ボックスを設置できます。

用語集本体の作成

サイドメニューの編集が完了したら、次は用語集本体の作成です。Wikiではコロンを文頭におき、

:用語1:解説1
:用語2:解説2
:用語3:解説3

という形式で用語解説を記述します。それぞれの用語はExcelで管理されていた(図1)ので、タブ区切りのテキストに保存した後、一括置換でWiki用の記法に変換しました。このようにして、600語近くあった用語は1時間足らずでWikiに移行完了しました。

要望と対策

ひととおり用語集のWikiが使えるようになったので、編集責任者に見てもらって感想を聞きました。すると、2つの要望が出てきました。

Reprint without permission prohibition
Copyright (c) 2005-2006 All Rights Reserved by Gijutsu-Hyohron Co., Ltd.

| 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
|-----|----------|---|-----------------------|---|
| 252 | 【そ】 | | | |
| 254 | 購入 | → | そるえんぐり購入、空購入、行購入の場合は漢 | |
| 255 | 購入も、見える | → | そがえる | |
| 256 | その他の、その他 | → | その他 | |
| 257 | 【た】 | | | |
| 258 | ～にたいて | → | ～にたいて | |
| 260 | 大体 | → | たいてい | |
| 261 | 大体 | → | たいてい | |
| 262 | 大体 | → | たいてい | |
| 263 | 大体 | → | たいてい | |
| 264 | 大山 | → | たさん | |
| 265 | たす(たし)期 | → | たす(たし)期 | |
| 266 | (-し)はず | → | (-し)はず(書き出す、読むはず) | |
| 267 | 【た】 | | | |
| 268 | ～達 | → | ～たち | |
| 269 | 漢 | → | かん | |
| 270 | 漢 | → | かん | |
| 271 | 漢 | → | かん | |
| 272 | 漢 | → | かん | |
| 273 | 漢 | → | かん | |
| 274 | 漢 | → | かん | |
| 275 | 漢 | → | かん | |
| 276 | 漢 | → | かん | |
| 277 | 漢 | → | かん | |
| 278 | 漢 | → | かん | |
| 279 | 【ち】 | | | |
| 280 | チヤク | → | ちやく | |
| 281 | チヤク | → | ちやく | |
| 282 | チヤク | → | ちやく | |
| 283 | チヤク | → | ちやく | |
| 284 | チヤク | → | ちやく | |
| 285 | 【つ】 | | | |
| 286 | ～(に)ついて | → | ～(に)ついて | |

図1 Excelで管理されていた用語集



図2 完成した用語集Wiki

他の人に勝手に編集されると困るから責任者だけが編集できるようにしたい
いつ、どんな用語の変更があったか、履歴を残したい

については、ページの凍結機能を使い、管理者パスワードを入れないとページを編集できないようにしました。誰でも自由に編集できるのがWikiの特徴ではありますが、ページを凍結して管理者パスワードを渡すことで、特定の人だけに編集権限を与えることが可能です。

実際には既存ページの編集ができなくなるだけで、誰でも新規ページは作成できてしまうのですが、今回のケースのように利用者が限られたWikiの場合はこれで十分です。

については、各ページの差分を見てもらうことで対応しました。Hikiのデフォルトでは、最後に更新した1回分の差分しか確認できませんが、プラグイン^{注2}を利用してすることで複数の世代にわたって差分表示できるようになります。

Wikiの公開

以上の対策が終了したので、いよいよ公開することになりました。Wikiには関係者だけがアクセスできるよう認証をかけ、メールでURLを通知します。

反応は予想以上でした。取引先からは「これなら自宅からでも校正作業ができて便利ですね」と喜んでもらえ、社内からも「検索までできるのがいい」と評価をいただきました。

とくに、何となく設置した検索ボックスが、実際に使ってみて非常に便利なのがわかりま

した。Hikiでは検索結果にマッチした1行を表示するので、わざわざリンク先に飛ばなくても

用語解説

の1行を確認することができるのです。調べたい用語を続けて検索できれば、校正の効率が格段にアップします。

このように、最小限の作業と工夫でみんなが便利に使える用語集が完成しました(図2)。こんな素晴らしいアプリケーションを作ってくださいったWikiの作成者にあらためて感謝します。

おわりに

今回使用したHikiには、検索フォームを設置する「search.rb」の他にも豊富なプラグインが用意されており、必要に応じて機能を拡張できます。とくに業務でWikiを活用する際は「ファイルを添付したい」「カレンダーを表示したい」「ページをPDFに変換したい」...などなど、さまざまな要望が出てくるでしょう。そんなとき、プラグイン機能を備えたWikiなら柔軟に対応することができます。

また、既存の機能だけでも、解決できる名案がないかどうか考えるのも、Wiki運用者の腕の見せどころです。



注2 cvs.rb (データをCVSで管理するプラグイン)とhistory.rb (CVSの編集履歴を表示するプラグイン)。

Wiki活用品体事例2： 育児サークルとWiki

TEXT:しばむらしのぶ

育児サークルの概要

この育児サークルは、2004年の3月から活動を開始しました。メンバーは保健所主催の赤ちゃん教室や地域の掲示板にポスター掲示などで告知し、集まった人々です。地域に密着したタイプの育児サークルで、活動は週1回の定期的な集会の他、数ヶ月に1度、ワーキングマザーの方も参加できる土曜の集会を開催しています。集会はとくにプログラムはなく、母親同士のコミュニケーション（おしゃべり）をしてストレスを発散)の場として活用されています。

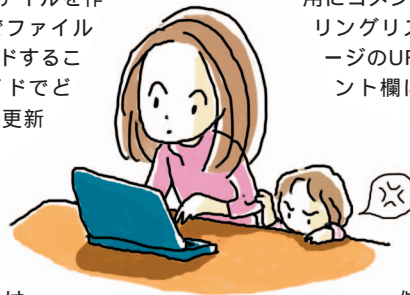
メンバーは100%、メールアドレスを持っていますが、中には携帯のみでPCのないメンバーもいます。大半がITやPCに関して詳しくはありません。スキルのにはインターネットの閲覧ができ、簡単なメールの送受信や掲示板への書き込みをするライトユーザです。

育児サークルと Wikiの活用

最初、Wikiを導入しようと考えたのは設置者であり、また、Webページの内容を更新する担当である自分が楽をするためです。WikiはHTMLのファイルを作成したり、FTP経由でファイルをサーバにアップロードすることをせず、サーバサイドでほとんどページを作成/更新できるからです。

また、育児サークルの場合、世代交代が頻繁に行われるので、Wikiで作成されているWebサイトはWebページの管理や作成ノウハウが簡略化されているので、引き継ぎの手間が大幅に省ける点でも大変有効です。

そして、筆者のサークルでは行っていませんが、フリーペーパーを発行するサークルで



も、Wikiは十分活用されるでしょう。Wikiはドキュメントをみんなで作るのに向いているからです。

育児サークルにおける Wikiの運用

Wiki上に置いてあるコンテンツは、おもに情報共有、周知内容がメインです。Wikiとメーリングリストの連携の流れを示します。

発信者が情報を整理してWikiにページを作成します。

メーリングリストを通してメンバーに周知されます。

メンバーはページを閲覧し、反応をページ上にあるコメント欄に記入したり、発信者へ個別にメールを出すことで応答します。

具体的に活用した事例で、とくに良かった事例に、イベント開催と会計ページがあります。

イベント開催ページ

保健所主催の歯科衛生相談イベントを開催したときは、まずWikiページに日時場所、所持品などの概要を整理して書き、出席確認用にコメント欄を設けました。次にメーリングリストでイベント概要とWikiページのURLを記し、参加希望者はコメント欄に投稿するよう指示を出しました。そして、イベント開催後、写真をWikiページに貼り、それがそのまま、活動履歴になりました。

このようにイベントを開催する場合、1つのページで「開催告知」「出席簿」「活動履歴」として柔軟に状態を更新しながら残せるのがWikiの良い点です。

Reprint without permission prohibition
Copyright (c) 2005-2006 All Rights Reserved by Gijutsu-Hyohron Co., Ltd.



会計ページ

会計ページは、会計責任者1人が更新するだけでなく、サークル活動上発生する費用を負担者も報告できます。Wikiの誰でもすばやく記入ができるという特性を活かされています。

記入の仕方は、表形式を使い、列は、「日付」「項目」「収入」「支出」「残金」「記事」から成り立っています。計算は手作業になりますが、扱う金額も大きくはないので、とくに問題はありません。

育児サークルサイトの必要機能

筆者は、2004年3月に育児サークルを立ち上げて以来、1年強の期間、Webサイト構築やメンバーリスト管理を手がけてきました。その中の経験から学んだ、Wikiを含め、Webサイト/メンバーリストの必要機能を記しておきます。

メンバーリスト

Webサイトがないとしても、メンバーリスト機能は周知連絡のためにあると、とても便利です。

認証機能

Webサイトがある場合は、情報を保護する観点から必須機能です。

Wiki他CMSツール

なるべく更新/修正が直感的で簡単なツールを推奨します。

掲示板

掲示板があるとコミュニケーションが一部活性化します。一部のWikiには掲示板プラグインを備えているものもあるので、そちらを使っても良いでしょう。

携帯電話対応

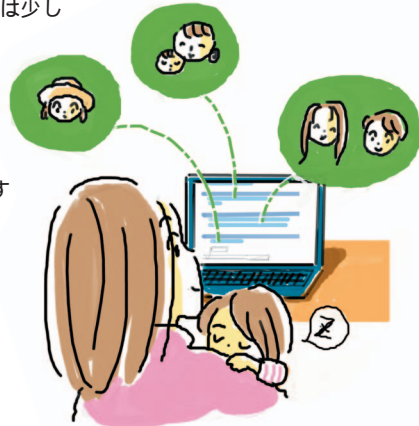
Wikiの他、CMSツールにしても、掲示板にしても、携帯電話からの閲覧/書き込みに対応しているタイプが便利です。育児に忙しく、なかなかPCを立ち上げる時間がないお母さん方には便利に使われます。

育児サークルサイトを1年運営して

サークル自体の運営は、周知にとくに気を遣いました。途中で途切れがちで、かつ最後まで伝達するのにどのくらいの時間がかかるかわからない電話連絡網に比べて、メンバーリストがあったことは大変、助かったことの1つです。

また、Wikiで作ったサイトは、サークル運営の補助的ツールとして有効でした。会計ページなどをきちんと誰もがみれる形で残せたのは良かったと思います。その一方で、メンバー参加型のコミュニティとしてサイトが機能しなかった点については少し残念でした。

サークルサイト運営は、それぞれのサークルの雰囲気にもよるでしょうが、コミュニケーションを期待するよりも、みんなで閲覧できるサークル運営ノートとしての利用が良いかもしれません。



Reprint without permission prohibition

Copyright (c) 2005-2006 All Rights Reserved by Gijutsu-Hyohron Co., Ltd.

4つのWikiソリューション

TEXT 塚本牧生

前項までで、Wikiが実際に仕事の現場で役立つソリューションになりうることを紹介しました。そこからもう一歩進めると、このソリューションを適切な価格で提供できるなら、Wikiはビジネスになるはずですが、

ただし、ちょっと気を付けたいのは、Wikiで作成されるWebサイト（Wikiサイト）の利用者と

プロジェクトでの情報活用

プロジェクト、とくに会社でのプロジェクトでは、報告書などの定型文書の他に、さまざまな「メモ」が発生します。こうしたメモ書きなども、共有ディレクトリなどに集めることで「情報共有」は可能です。しかし定型文書などに比べると、誰もがピンとくる分類は難しく、台帳管理などの手間はかけられず、しかも検索性は悪くなります。このため、いざ「情報活用」というときに、どんな情報があるかわからない、あるとわかっていても探せない、といった問題が起きます。

こうした情報活用のためのソリューションとして、しばしばナレッジベースやCRMといったシステムが選択されますが、代わりにWikiサイトを情報共有の場にするのも一案です。Wikiサイト上でのメモページ作成はテキストファイルの作成と手間はあまり変わりません。

でも、これがきちんと上記の問題へのソリューションになるのです。メモはすべてWikiサイト上で作成されますので、集約漏れは起きません。しかも一覧などは自動で作成されますし、全体検索なども実用的な速度で行われるので、どんな情報があるかわからない、探し出せないといった問題も解消されます。

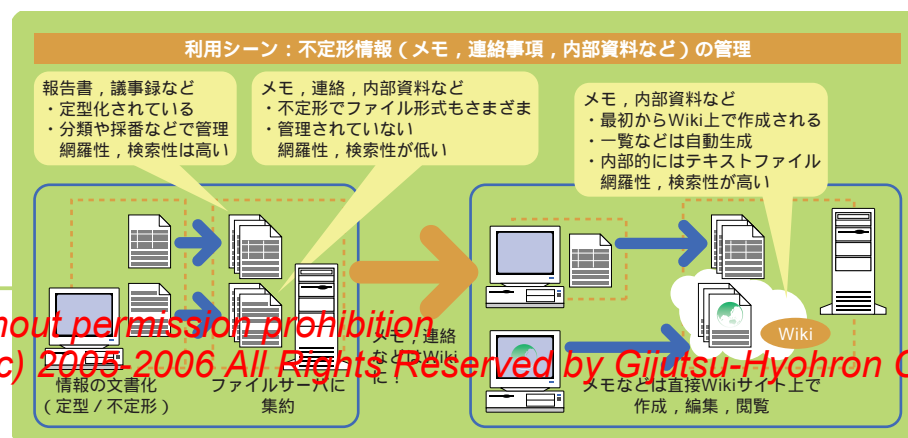
一覧を更新日順で表示したりRSSで通知する機能もあり、単なるメモ書きと違ってリンクが張れますので複数のメモへのリンクをまとめたページを作成するなど、より情報活用に資する特徴もあります。

プロジェクト向けのWikiソリューション

このケースでは、Wikiサイト利用者は各プロジェクト参加者、Wikiシステム運用者は情報システム管理者／部門になります。利用者にはある程度スキルを期待でき、使い勝手などの面でもツールに合わせてくれそうです。一方でプロジェクトの発生ごとにWikiサイトを追加、プロジェクトの運用に合わせて細かく設定など、管理作業が大変になることが予想できます。利用者にとってこの作業待ちがボトルネックにならないよう「管理の容易さ、管理作業の分散」にも配慮が必要でしょう。

たとえば「WikiFarm機能を持つ、Wikiが構築済みのサーバ（以下WikiFarmサーバ）導入」は1つのソリューションになるでしょう。「WikiFarm機能」は1つのWikiシステム上で、複数のWikiサイトを運営できる機能です。システムの増加がない分管理はしやすく、Wikiサイトごとに設定画面が用意され細かな設定は利用者に任せることができそうです。

また「ASPでのWikiサイト提供」もソリューションになります。システム運用者は契約とライセンス管理だけをすれば良く、サイトごとの設定は通常利用者側で行えます。提供企業側で認証や通信暗号化などといった点に配慮すれば、外出時のWikiサイト利用や、社外との共有といった活用方法もソリューションに盛り込めます。



Reprint without permission prohibition
Copyright (c) 2005-2006 All Rights Reserved by Gijutsu-Hyohron Co., Ltd.

Wikiが動くサーバシステム（Wikiシステム）の管理／運用者は違うことが多いことです。Wikiサイト利用者は現場の人たちですが、Wikiシステム運用者は情報システム部門やISP、コンテンツデザイナーといった人たちです。

このため、Wikiのソリューション化、ビジネス化を考えるとときには、Wikiサイトが使われる現場だけではなく、Wikiサイトを提供し、ビジネスターゲットとなるシステム運用者まで含めたイメージが必要です。

ここでは、実際に4つの利用シーンを提示し、さらにどうソリューション化するか、誰がビジネスターゲットになりそうかを考えてみます。

コミュニティでのWebページ作成

Webページを持つ地域コミュニティも増えてきましたが、この効果は情報発信だけではありません。広報誌や会報の機能が一部代替され、印刷費用、配布作業、郵送費用などの負担を抑えられます。入退会などの随時受付のために設けていた電話窓口をWebページ+メールにすれば、電話の前で人が待機している必要がなくなります。こうした「運営の負担」というのはコミュニティにつきもの問題です。

実際に地方自治体などが地域活性化策や地域活動支援策など打ち出すとき、この問題へのソリューションの意味でもホームページスペースなどを提供している例がしばしばあるようです。

しかし、熟練者にはメールを書いて送ると大差ないホームページの更新作業も、不慣れだと毎日が教科書片手での大作業です。もしそのせいで更新が遅れば、会報や広報誌を減らしたり受け付け窓口にしったりといった役に立たなくなります。Webページ作成／更新のスキルがないと、むしろ負担が増えるだけという課題が残ります。

Webページスペースだけではなく「Wikiサイト提供」という形にできれば、この課題も解決できます。WikiサイトはWebブラウザ上で更新でき、ツールの知識が不要です。サーバ上で作業ができ、FTPなどの知識が不要です。WYSIWYG^{※3}に近い編集方法を持ち、HTMLの知識が不要です。Webページスペース提供には目的があるはずですが、「Wikiサイト提供」はよりその目的に適っ

たソリューションになります。

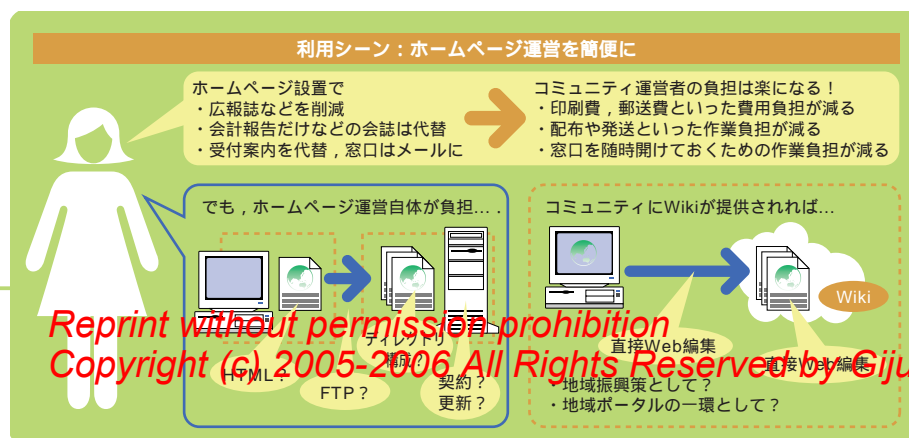
コミュニティ向けのWikiソリューション

このケースでは「初心者がたまたま使うだけ」といった頻度でも困らない、「見ればわかる」Wikiアプリケーションを選ぶことが重要です。完全にWYSIWYGで編集できる、画像などを編集画面から追加（アップロード）できるといった機能を持つものです。たとえばNOTA、Content Editable Wikiなどがあります。

また、ビジネスターゲット探しも重要です。プロジェクト向けのWikiでは、プロジェクトはWikiを活用して利益を増やせば、システム運用者の評価にもつながります。しかしこのケースでは、普通は利益を産まないコミュニティへの、Wikiシステム運用者を見つける必要があります。

まず、前述したように自治体というのがあるようです。この場合、「WikiFamサーバ導入」に、さらに運用支援（あるいはアウトソーシング）まで盛り込むと良いかもしれません。

また、地域ポータルなどを運営しているコンテンツ業者なども考えられます。彼らは広告収益やコンテンツ販売などにより、コミュニティ支援を収益に結び付けられます。このケースでは要件は既存ポータルとの融合などまちまちで、「個別案件ごとのWikiシステムインテグレーション（以下Wikiの個別SI）」ということになるでしょう。



注3 What You See Is What You Getの略。編集画面と出力結果が一緒に見ることができ、直感的な操作ができることなどを指します。



編集出版での執筆校正

執筆者と編集者のやり取りは、旧来の原稿や版下を郵送、少量であればFaxという「郵送/Fax」方式から、ワープロやPDFツールなどのWYSIWYGアプリケーションと、そのデータを数秒で受け渡してできるメールによる「ワープロ+メール」方式に変わってきました。この方式ではより密なコラボレーションが可能になり、編集者と執筆者の対面作業なしで脱稿まで、ときには刊行まで進める「遠隔編集」のようなことも現実的なものになりました。

しかしページ数が増えてくると、この方式ではすぐにメールでの受け渡しに難しいサイズになり、ワープロの動作にストレスを覚えるようになります。そこで通常は、WYSIWYGを諦めて「テキスト(+図版)+メール」方式に、あるいは取り回しや見通しの良さを諦めて「分割ワープロファイル+メール」方式にしているのが実情です。

しかしワープロ+メール方式のアレンジから、「Wiki」方式に切り替えることも1つのソリューションになりえます。Wiki方式では、Wikiサイト上で執筆/校正される原稿にそれぞれがアクセスし、データの受け渡しは不要

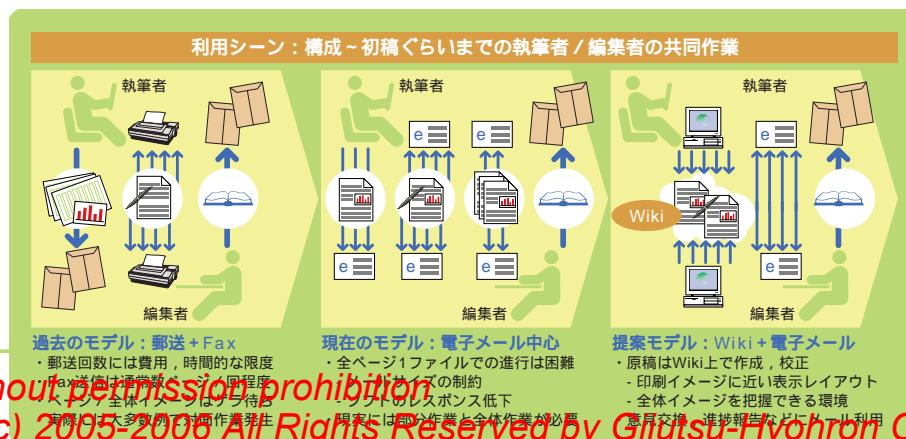
です。Wiki方式はWYSIWYGの要件を満たしますし、一方で編集はテキストベースですからかなりの長文になっても軽快です。

編集出版向けのWikiソリューション

このケースでは、誰をビジネスターゲットとするかで形態が変わってくるでしょう。

現実的なのは、執筆者+編集者ユニットをターゲットにすることです。この場合個人レベルでまかなえる費用であること、脱稿すればそのWikiサイトが不要になることを考えれば、個人向けの「ASPでのWikiサイト提供」ということになるでしょう。

編集部あるいは出版社といった組織をターゲットにするのであれば、これは「プロジェクト向けのWiki」と同じです。プロジェクト参加者が、最小でたった2人のユニットだというだけの違いです。「プロジェクト向けのWiki」と同様に、「WikiFarmサーバ導入」「ASPでのWikiサイト提供」のどちらも考えられるはずですが。



Reprint without permission prohibited
 Copyright (c) 2005-2006 All Rights Reserved by Gijutsu-Hyohron Co., Ltd.

個人向けのWiki

現時点で、Wikiが最も広く知られ、使われているのはおそらく個人サイトでしょう。たとえば、PukiWikiは3月時点で8,000程度のPukiWikiサイトが稼働しているようだと言っています。個人サイトの作成ツールとして、またまとめサイトなどのバックエンドとして使われているケースが多いようです。

Wikiがソリューションになる理由は、これまでに見てきました。前者では、コミュニティでのWebページ作成と同様、Webサイト運営が簡単、手軽に行えるツールとして使われています。後者では、「プロジェクト向けのWiki」や「編集/出版向けのWiki」と同様に、複数人で共同でWebサイトを更新していくことができ、情報集約ができる点がポイントになっています。

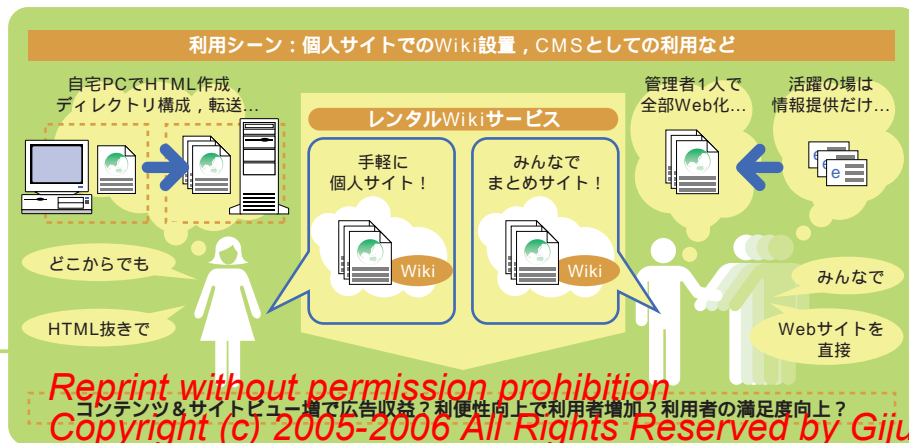
しかし、実際にWikiサイトを立ち上げようとすると、通常は自分でCGIを設置できるISPなどと契約し、Wikiアプリケーションをインストールする必要があります。blogや掲示板のようなレンタルサービスがないため、Wikiサイトを利用しただけでも、システム運用者のスキルが必要なのです。

個人向けのWikiソリューション

このケースでは、利用者にとってのソリューションはWikiサイト提供です。考えるべきことは「コミュニティ向けのWikiソリューション」とよく似ています。Wikiサイトを個人が利用できるようになって、そこで利益が生まれることは少ないということです。そうすると誰が個人にWikiシステムを提供するでしょう？

掲示板、blogなどのレンタルサービスのビジネスモデルを探るのが良さそうです。まずポータル運営者などが、広告収益やコミュニティマーケティング効果を高めるために、コンテンツとビジターを増やすためにサービスを行っています。また、ISPや会員制サービスサイトなどは、既存ユーザの満足度向上や、新規ユーザ獲得のためのアピールとしてこうしたサービスを行っています。どちらも、Wikiのレンタルサービスでも合致する理由です。

システムに求められる要件も「コミュニティ向けのWikiソリューション」で検討したポータル運営者向けのソリューションに近いはずです。つまり「Wikiの個別SI」ということになるでしょう。



Wikiスタートアップガイド:

TEXT 塚本牧生

Wikiスタートアップ

WikiFarmサービスを試してみる

すでに個人によるWikiFarmはいくつかあり、手軽にWikiサイト作りを体験できます。ここでは、Wikiアプリケーションの1つ「Hiki」の作者によるHikiFarm (<http://wiki.fdiary.net/>) を使わせてもらうことにします。

HikiFarmの登録と設定

利用登録は、HikiFarm上の「新しいWikiサイトの作成」でサイト名を入力するだけです。これだけで新しいサイトが作成され、トップページ (FrontPage) が表示されます。

設定はページ上部の「管理」で開く管理画面で行います。まず「パスワード」ページでの管理者パスワードを設定します。他にサイト名やテーマ (外観) などを変更すると良いでしょう。

ページの編集

FrontPageで「編集」をクリックすると、掲示板などに似たWebフォームが表示されます。テキストエリアにはページ本文が表示されますが、表題やリンク部分などがちょっと違ってきます (図3)。これはテキストしか扱えないWebフォームのために考え出された書き方で「Wiki記法」などと呼ばれています。

まずは記法の勉強などは後回しにして、元々

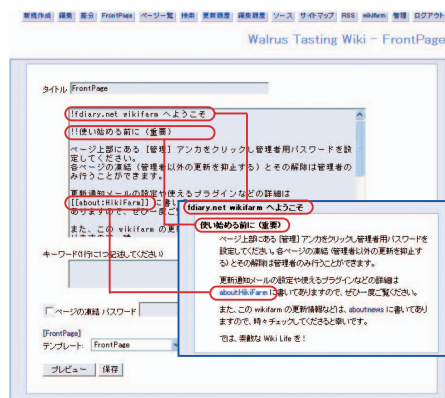


図3 Hiki編集画面

の内容をまねてみます。たとえば、リスト1のような内容で保存すると、ちょっと自分用トップページらしくなるでしょう。

その他の機能

「新規作成」でページの追加ができます。まずはFrontPageからリンクした「自己紹介」を作るべきでしょうね。編集画面からは画像のアップロードもできます。

「自己紹介」ページ作成後にFrontPageを表示すると、リンクが辿れるようになっているはずですが、「ページ一覧」や「RSS」などもWikiが自動的に更新してくれます。

Wikiをもっと知る

他にどんなWikiがあるかを知るうえで、次の3点は試しておくとも良いでしょう。

qwikWeb (<http://qwik.jp/>)

Wikiとメーリングリストが統合されています。利用方法も同ページにあります。

NOTA (<http://rakusai.org/nota/>)

Flashを使ってWYSIWYG化されています。設置済みのNOTA上でページ編集などを試すことができます。

ContentEditableWiki (<http://nais.to/yt/tools/contenteditablewiki/>)

Flashを使わずにWYSIWYG化されています。これも設置例を試すことができます。

また、書籍では『WikiWay』(ISBN4-7973-1832-5)と『結城浩のWiki入門』(ISBN4-8443-1915-9)があります。今はまだ2冊だけですが、2005年には何冊か刊行される予定があるようです。

! のWikiへようこそ

!!このサイトについて
××についての情報サイトです。それでは、Have fun!

!! について
[[自己紹介]]をご覧ください。

リスト1 FrontPageの編集例

Reprint without permission prohibition
Copyright (c) 2005-2006 All Rights Reserved by Gijutsu-Hyohron Co., Ltd.



Column : Wikiばなについて

TEXT:塚本牧生

Wiki系イベント 「Wikiばな」

「Wikiばな」はWiki好きが集まってWikiやその周辺の四方山話をするイベントです。本記事の序文、事例2を執筆したしばむらしのが氏の段取りで、これまで4回開催されています。

Wikiばなは、セミナーやセッション、ディスカッションなどではない点が、ちょっとユニークです。ダンドリスト（主催者的な役割の人）が毎回、たとえば「Wikiとコミュニティ」「Wikiデザイン」といったお題を出します。このお題を席替えを入れながら、少人数で意見交換（というよりおしゃべり）を行います。その際、とくに結論は出しません。

参加者には「Wikiの話の思う存分できた」ことが最大の収穫になります。また、結論を出さないとは言え、参加者には開発者やサイト運営者も多く、彼らにはインスピレーションやアイデア、モチベーションにつながることも多いようです。

開催は不定期ですが、これまで3~6ヵ月おきに行われています。興味のある方は、ぜひWikiばなのサイト（<http://wikibana.socoda.net/>）を覗いてください。

Wikiばなプレゼンツ

3月の第4回Wikiばな「Wiki博覧会」は、従来の全員参加型意見交換のWikiばなとは趣を変えたも



のになりました。テーマは「Wikiの今を紹介する」で、セミナールームでのセッション方式。FSWikiやHiki, PukiWikiといった広く使われているもの、NOTAやqwikWeb, Wemaといったユニークなもの、計12種類のWikiアプリケーションをおもに開発者自身が紹介するというものです。

86人用の会場を埋めた同イベントは好評をいただいた一方で、従来のWikiばなも継続してほしいという要望も寄せられました。そこで今後は、従来どおりの「Wikiばな」を開催しつつ、これとは別に機会があれば「Wiki博覧会」や本特集のような紹介活動などにも関わっていきたいという流れになっています。

従来のWikiばな以外の活動を、Wikiばな参加者から皆さまに贈る、という気持ちを込めて「Wikiばなプレゼンツ」と呼ぶことにしました。

『Software Design』誌 連載「Wikiつまみぐい」

本記事に続き『Software Design』(技術評論社)での連載が始まることになりました。連載形式ですので、Wikiにより深く触れるとともに、旬のホットトピックをふんだんに盛り込んだものを目指しています。

「Wikiつまみぐい」と題して、2005年8月号(7月16日発売号)から連載の予定です。こちら併せてよろしくお願いたします。

Reprint without permission prohibition

Copyright (c) 2005-2006 All Rights Reserved by Gijutsu-Hyohron Co., Ltd.